

平成 25 年度大学満足度調査結果について

教育支援センター長

大学満足度調査は、平成 19 年度以降全学生を対象に毎年実施しています。その結果は、教育改革やカリキュラム改革等に有効に利用されてきました。調査項目は全学統一であり、統一用紙を用いて調査を行っていますが、調査自身は各学部委ねられており、調査実施時期は学部の事情を反映して若干異なっています。新 2 年生以上については、4 月の年度当初に行われる「学部別ガイダンス」の際に調査を行うことを基本としていますが、経済学部の新 3・4 年生は 1 回目ないし 2 回目のゼミで実施しています。また、前年度卒業生については、卒業式当日に行うことを基本としていますが、薬学部と看護学部においては実習の関係もあり 12 月に調査を行っています。

全学での回収率は 70% 台後半であり、他大学と比して決して低くありません。Web による調査を行っている大学では、回答率が 40% 程度の場合もあります。しかし、回収率は学部および学年によって大きく差のすることがあります。特に、前年度卒業生の回収率が極端に低い学部があり、この低い回収率は必ずしも毎年繰り返されるわけではないので、その年のその学年の調査において、調査書の提出を強く働きかけることを怠ったためではないかと推測しています。回収率があまり低いと、有意な調査結果が得られないことから、回収率の向上を各学部強く要望したいと思います。

(1) 調査項目の変更について

項目数が多くなりすぎたことと、設問の意味を大学側と学生とが異なった理解をしているのではないかと懸念があったことから、25 年度の調査においては、前年度の調査からいくつかの項目で変更を行いました。

① 削除した項目（5 項目）

- ・「勉強のことでよく先生に相談する」の項目は削除しました。削除の理由は、相談することが多いか少ないかを問うていますが、相談したいが相談できないのか、相談する必要性を感じていないから相談しないのかの区別がつかないためです。
- ・「勉強する量は適切である」「学習分野の広さは適切な範囲である」「授業のレベルは適切である」「宿題などを相談する機会が十分設けられている」の 4 項目を削除しました。削除の理由は、他によく似た設問があり、十分代替できると判断したからです。

② 修正した項目（4 項目）

- ・「Q9 教養教育について」の「①知的刺激を感じる授業に出会った」を「①やりがいのある授業があって充実している」に修正しました。修正理由は、他の設問との重複を避けるためです。
- ・「Q9 教養教育について」の「③授業で学んだ外国語は役立つ」を「③教養教育で英語を学んでよかった」に修正しました。修正理由は、未修外国語を含めた外国語全般ではなく、英語についての設問に絞り込むためと、「役立つ」の意味が何のために役立つのかが不明確なためです。

- ・「Q9 教養教育について」の「④授業で学んだことは自分のキャリア形成に役立つ」を「④教養教育で多様な価値観にふれることができ良かった」に修正しました。修正理由は、学生が教養教育をキャリア形成に結び付けて考えていないように思われたためです。
 - ・「Q10 専門教育について」の「④やりがいのある授業があって充実している」を「④主体的に学び考える授業に出会った」に修正しました。修正理由は、他の設問との重複を避けるためです。
- ③ 「Q11 授業への教員の取り組みについて」の設問で量的な問を質的な問に修正した項目(5項目)
- ・「①理解度を確認しながら授業を進める先生が多い」を「①理解度を確認しながら授業を進めている」に修正しました。
 - ・「②教え方がうまい先生が多い」を「②教え方は理解しやすい」に修正しました。
 - ・「③自分の成長を気にしてくれる先生がいる」を「③学生の声に耳を傾けてくれる」に修正しました。
 - ・「④相談をしやすい先生が多い」を「④相談しやすい」に修正しました。
 - ・「⑤授業に熱意をもった先生が多い」を「⑤授業に熱意をもっている」に修正しました。

(2) 調査結果の集計方法について

従前、大学満足度調査結果は、調査年毎、学部毎、学年毎、設問項目毎に回答を集計し、相対度数による横棒グラフで表示してきました。この方法では、経年変化や学部間の差等が明確でなく、全学的視点に立った分析や評価に適していないことから、平成 23 年度調査より、各回答をポイントに換算し平均点をとる方法、すなわち、大学満足度調査版 GPA で表示することにしました。

各設問に対して用意されている回答は、「強くそう思う」、「そう思う」、「それほど思わない」、「まったく思わない」の 4 段階であり、調査開始当初にあった中間的な評価を廃止し、肯定的か否定的かに明確に分けるようにしました。この趣旨を活かして

強くそう思う	＝＋3	そう思う	＝＋1
それほど思わない	＝－1	まったく思わない	＝－3

とポイントをつけることにしました。したがって、評価点は－3～＋3 の間の点数となり、次のような意味を持つことになります。

＋3	全学生が完全肯定したことを意味し、現実にはあり得ないと思われる。
＋1.2	＋3 が 20%、＋1 が 70%、－1 が 10%、－3 が 0% の場合が相当し、極めて肯定的意見が多いことを意味する。
＋0.6	＋3 が 20%、＋1 が 50%、－1 が 20%、－3 が 10% の場合が相当し、かなり肯定的意見が多いことを意味する。
0	肯定的意見と否定的意見が拮抗することを意味する。
－0.6	＋0.6 の逆であり、かなり否定的意見が多いことを意味する。
－1.2	＋1.2 の逆であり、極めて否定的意見が多いことを意味する。
－3	全学生が完全否定したことを意味し、現実にはあり得ないと思われる。

(3) 調査結果の信ぴょう性

3ヶ年の経年変化を見たとき、若干の上下はあるものの、学部毎に値が安定的に推移しています。調査対象の学生が入れ替わっても調査結果の変化が少ないことは、学部毎の体質ないし体制の変化が少なく、学生による評価が固定していることを意味し、その調査結果は信用に足るものであると考えられます。

(4) 評価点に対する総合評価

- ① 評価点が+1.2を超える（極めて満足度の高い）項目については、現時点では特に問題はないことになるが、今後も高い評価を受け続けるようにすべきと思われます。
- ② 評価点が+0.6を超える（かなり満足度の高い）項目については、緊急度は低いものの、さらに満足度を高めるべく努めるべきであろうと考えられます。
- ③ 評価点が0～0.6である（不満足というほどではないが満足度が低い）項目については、満足度を高める努力が必要と考えられます。
- ④ 評価点がマイナスである項目は、早急な対策が必要と考えられます。
- ⑤ 評価点が-0.6以下である項目は、特に緊急に対応すべきであると考えられます。

上述の判断を踏まえて、評価点を次のように総合評価しています。

評 価 点	意 味	総合評価
+1.2を超える	極めて満足度が高い	S
+0.6を超え+1.2以下	かなり満足度が高い	A
0を超え+0.6以下	不満足というほどではないが満足度が低い	B
0以下で-0.6まで	満足している者よりも不満足な者の方が多い	C
-0.6以下	かなり満足度が低い	D

(5) 項目別学部別評価結果

表中 S, A, B, C, D は、それぞれ 3 ヶ年ともに評価が S, A, B, C, D であったことを意味し、変化のあった項目については 3 年分の評価を記載しています（例：A ⇒25 年度 A、24 年度 A、23 年度 A 評価、ABC ⇒25 年度 A、24 年度 B、23 年度 C 評価）。尚、* は 24 年度から、** は 25 年度に新たに設けられた項目です。☆ は昨年 C または D 評価であったが B 評価以上となった項目、★ は今年新たに C または D 評価なった項目です。

	医学部	薬学部	経済学部	人文社会学部	芸術工学部	看護学部
Q 6 現在の自分について						
①名古屋市立大学に入ってよかった (H23 は大学に入ってよかった)	AAS	AAS	AAS	S	S	S
②大学生活は自分にあっている	A	A	A	S	AAS	AAS
③大学は自分の期待どおりであった	B	B	B	B	ABB	B
Q 7 大学での目標について						
①自分の進みたい職業分野がある	S	S	A	B	SAS	S
②大学は自分の将来のためになると思う	S	S	A	ASS	S	S
③大学で学んだことで将来を決めたい	S	S	B	BBC	A	S
④大学にきた理由を答えられる	S	A	B	BAA	A	S
Q 8 授業への自分の取り組みについて						
①授業に集中できている	BBA	B	BBC	B	BBA	B
②勉強する意欲がわく	BAA	B	☆BCC	B	BAA	B
③いい成績をとりたいと思う	BAA	A	A	A	A	AAB
Q 9 これまで受けてきた授業内容（教養教育）について						
①やりがいのある授業があって充実している **	B	B	B	B	A	B
②カリキュラム（科目構成・学年配当などは）適切である*	☆BC	☆BC	B	A	B	B
③教養教育で英語を学んで良かった **	B	C	B	A	B	C
④教養教育で多様な価値観にふれることができて良かった **	B	B	A	S	A	B
Q 10 これまで受けてきた授業内容（演習、実習等を含む。）について						
①知的刺激を感じる授業に出会った	A	A	A	S	ASS	A
②カリキュラム（科目構成・学年配当などは）適切である	B	B	B	A	ABB	B
③授業で学んだことは自分のキャリア形成に役立つ (H23 は授業で学んだことは役に立つ)	A	A	B	A	A	S
④主体的に学び考える授業に出会った **	A	A	B	A	A	A

	医学部	薬学部	経済学部	人文社会学部	芸術工学部	看護学部	
Q 1 1 授業への教師の取り組みについて							
①理解度を確認しながら授業を進めている (H23-24「理解度を確認しながら授業を進める先生が多い」)	CCB	☆BCC	☆BCC	☆BCC	BBC	☆BCB	
②教え方は理解しやすい (H23-24「教え方がうまい先生が多い」)	☆BCB	☆BCC	☆BCC	☆BCC	☆BCC	☆BCB	
③学生の声に耳を傾けてくれる (H23-24「自分の成長を気にしてくれる先生がいる」)	☆BCC	☆ACC	☆BCC	☆ABC	B	☆BCB	
④相談しやすい (H23-24「相談をしやすい先生が多い」)	CCB	☆BCC	C	★CBC	BBC	☆BCB	
⑤授業に熱意をもっている (H23-24「授業に熱意をもった先生が多い」)	B	ABB	B	AAB	ABB	ABA	
Q 1 2 授業の全体的な印象について							
①全体として、授業を楽しむことができた	BBA	B	B	A	A	B	
②いろいろな授業から知的刺激を受けた	ABA	A	B	A	A	A	
③全体として、これまでのところ大学での授業の経験には満足している	BBA	ABA	B	A	A	A	
Q 1 3 事務室・図書館や課外活動について *							
①大学職員の対応は満足できる	C	AB	C	A	B	★CB	
②教室などの学習施設は充実している	C	☆AC	B	B	A	B	
③図書館は充実している	C	AB	BA	B	A	B	
④食堂・喫茶等の施設は充実している	D	CD	D	D	C	C	
⑤課外活動のための施設は充実している	C	CD	C	C	B	C	
	医	薬	経	人	芸	看	
質問項目数	31	31	31	31	31	31	
D、CD、C、CB（網掛け部分）の項目数	7	3	4	3	1	4	
内 訳	昨年もD、CD、C、CB（網掛け）であった項目数	7	2	4	2	1	2
	今年度新たにD、CD、C、CBとなった項目数（★の数）				1		1
	新しい質問（Q9①③④、10④）からの項目数		1				
昨年D、CD、C、CB（網掛け）であったがB以上となった項目数（☆の数）	3	6	4	2	1	1	

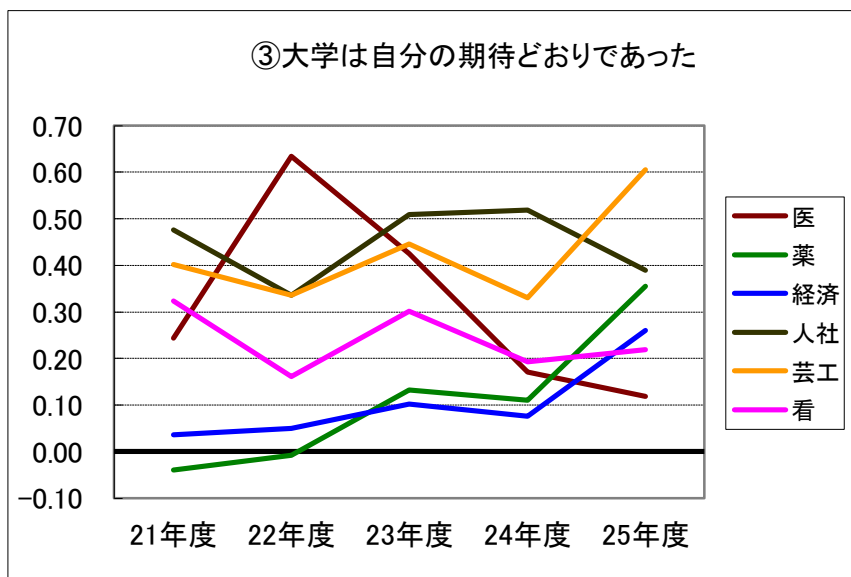
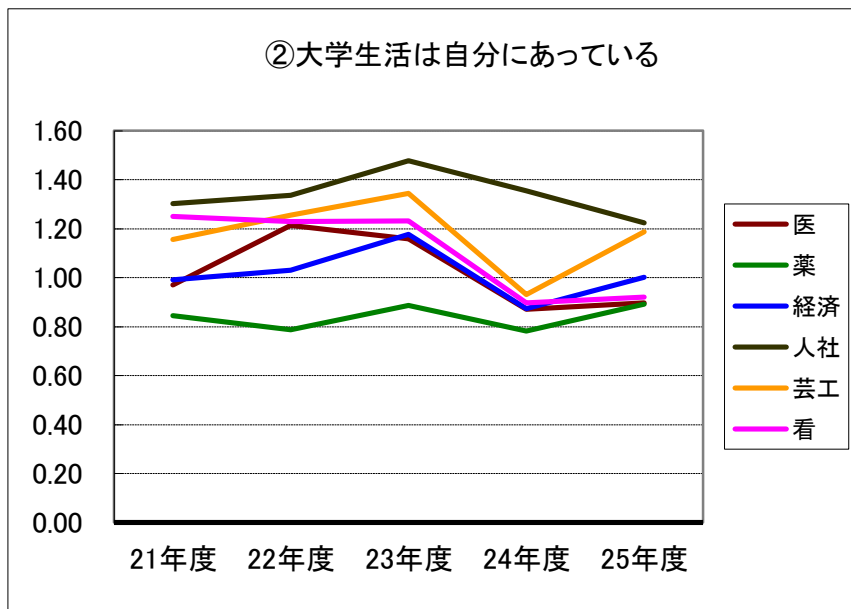
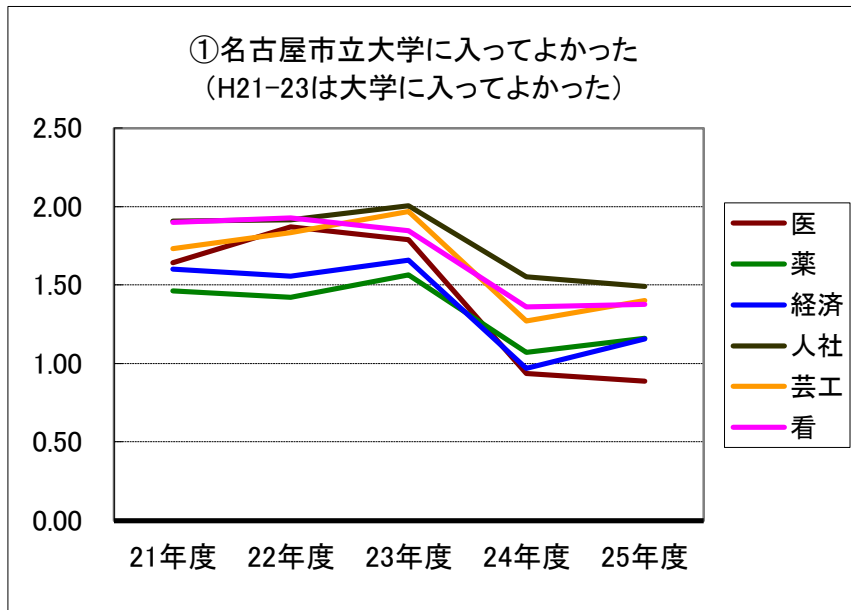
表中で網掛けにしたD、CD、C、CBの項目（医学部7項目、薬学部3項目、経済学部4項目、人文社会学部3項目、芸術工学部1項目、看護学部4項目）については、緊急な対策が必要と思われる

す。これら項目の中には、対策を立てることが困難なものもありますが、多くは教員の対応次第で満足度を高めることが可能と思われることから、検討及び対応をお願いしたいと思いを。

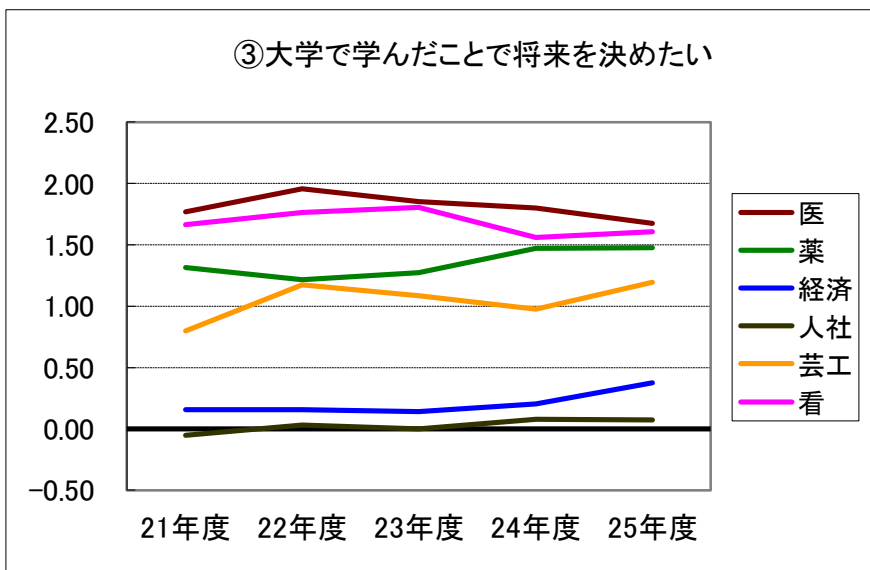
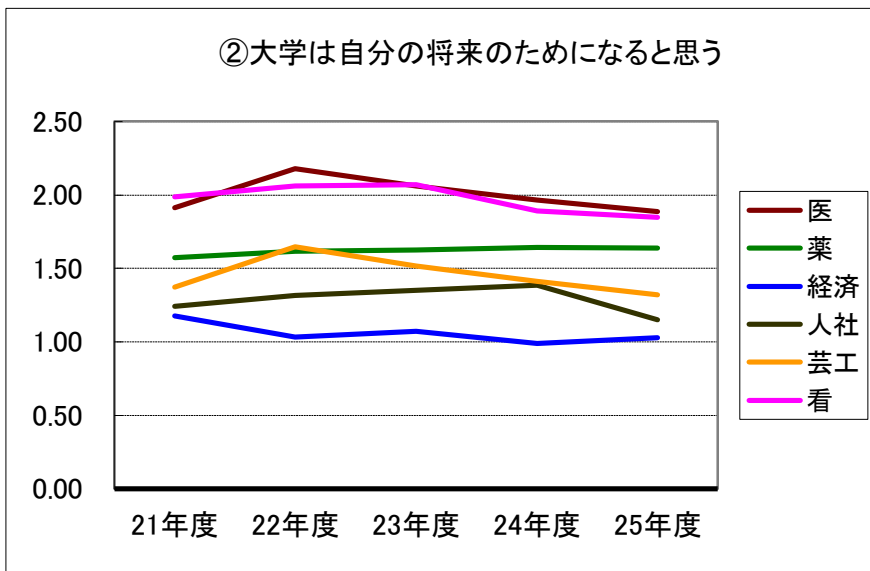
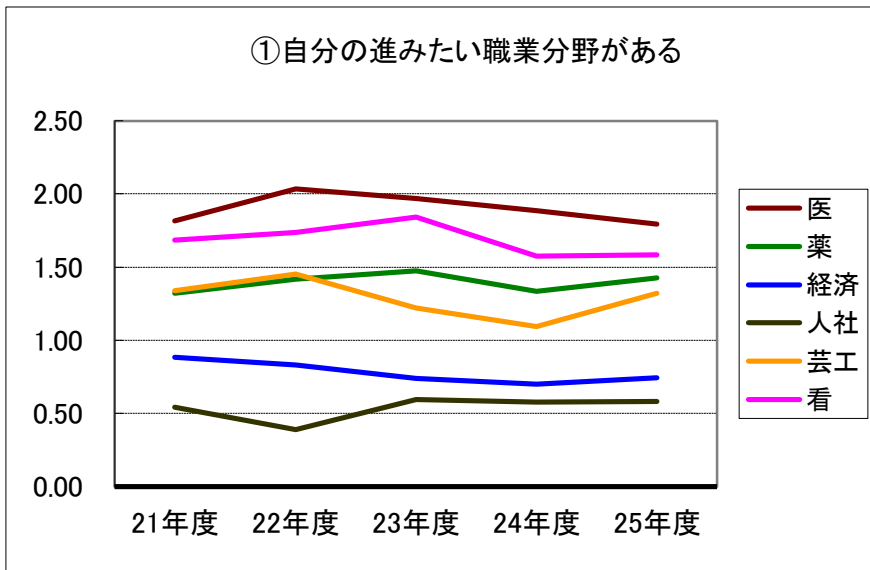
(6) 項目毎のコメント

- ① 前年度 D, CD, C, CB であったが今年度 B 以上に満足度が向上した項目が医学部 3 項目、薬学部 6 項目、経済学部 4 項目、人文社会学部 2 項目、芸術工学部 1 項目、看護学部 1 項目と極めて多かった。特に薬学部は多く、同じ総合評価でも評価点が大幅に上昇した項目が多かった。
理由としては、設問を具体化する方向で修正したためとも考えられるが、薬学部で改築がなされたこと、経済学部でチューター制度や 1・2 年生向けに基礎演習を導入し、教員が学生と接する機会を増やしたことなど、学生向けのサービス向上を実施したためと考えられる。
- ② 「Q6 現在の自分について」の「①名古屋市立大学に入ってよかった」「②大学生活は自分に合っている」、「Q7 大学での目標について」の「③大学は自分の将来のためになると思う」の 3 項目は、過去 5 年間全学部において総合評価が S ないし A であった。さらに、「Q10 これまで受けてきた授業内容（演習、実習等を含む。）について」の「①知的刺激を感じる授業に出会った」を含めた 4 項目は、直近では全学部で総合評価が S ないし A であり、全体として本学に入学して学んでいることに満足していると考えられる。
- ③ 「Q8 授業への自分の取り組みについて」の 3 項目は、今年度すべての学部で B 評価以上となった。
- ④ 「Q9 これまで受けてきた授業内容（教養教育）について」の「③教養教育で英語を学んで良かった」の項目では、薬学部と看護学部でマイナス評価（C 評価）であり、医学部も B 評価ではあるが評価点が 0 近くであり、これら 3 学部の学生は英語を学ぶことに意義を感じていないように思われる。
- ⑤ 「Q10 これまで受けてきた授業内容（演習、実習等を含む。）について」の 4 項目は、すべての学部でプラス評価であり、S ないし A 評価が多数見られる。
- ⑥ 「Q11 授業への教師の取り組み」は、すべての項目すべての学部（人社の「相談しやすい」を除き）で評価点が大幅に上昇した。これらは、設問内容を若干修正したことも影響していると思われるが、薬学部や経済学部では過去 5 年間毎年評価点が上昇しており、教師の学生に対する対応の変化が功を奏してきたためではないかと考えられる。
- ⑦ 「Q12 授業の全体的な印象について」の 3 項目は、S 評価こそないものの、過去 5 年間全学部で A ないし B 評価である。
- ⑧ 「Q13 事務室・図書館や課外活動について」においては、薬学部の評価点の急上昇には目を見張るものがある。これは、薬学部の改築が原因していると考えられる。

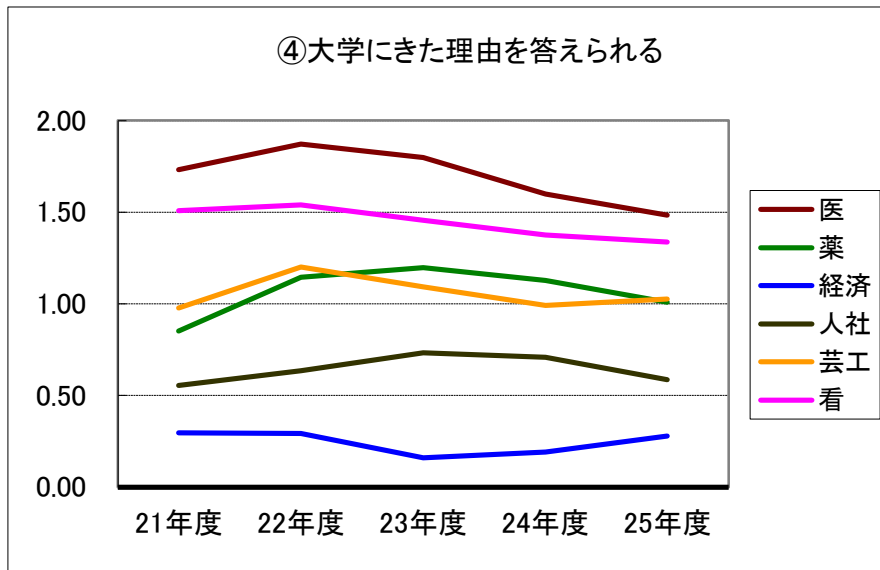
Q6 現在の自分について



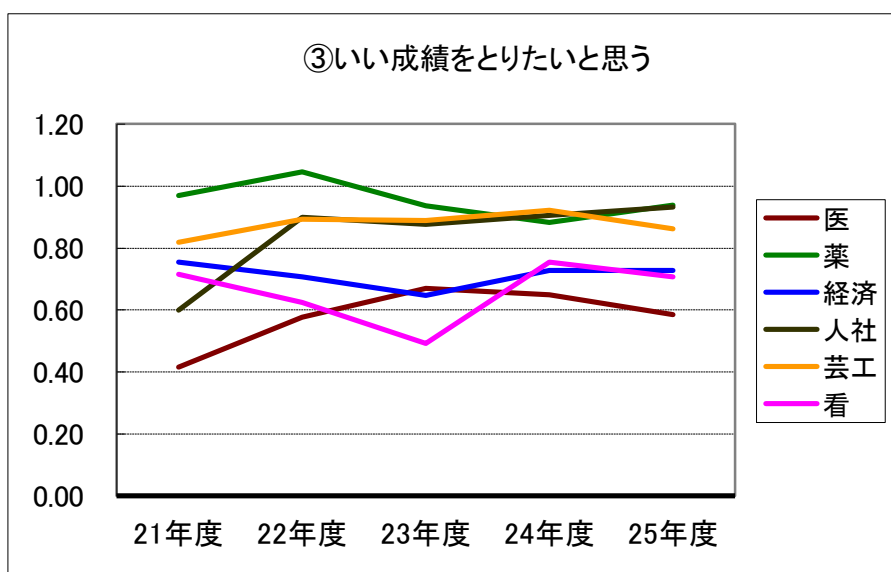
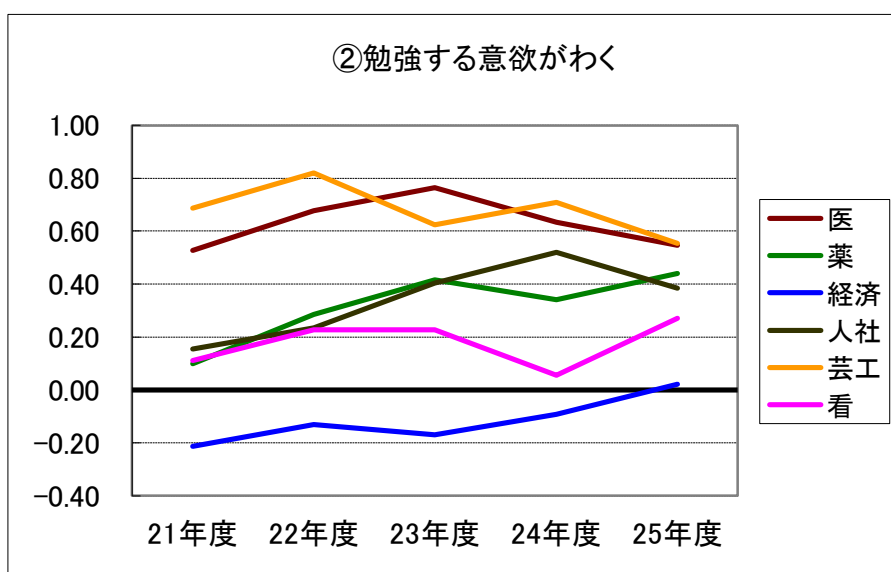
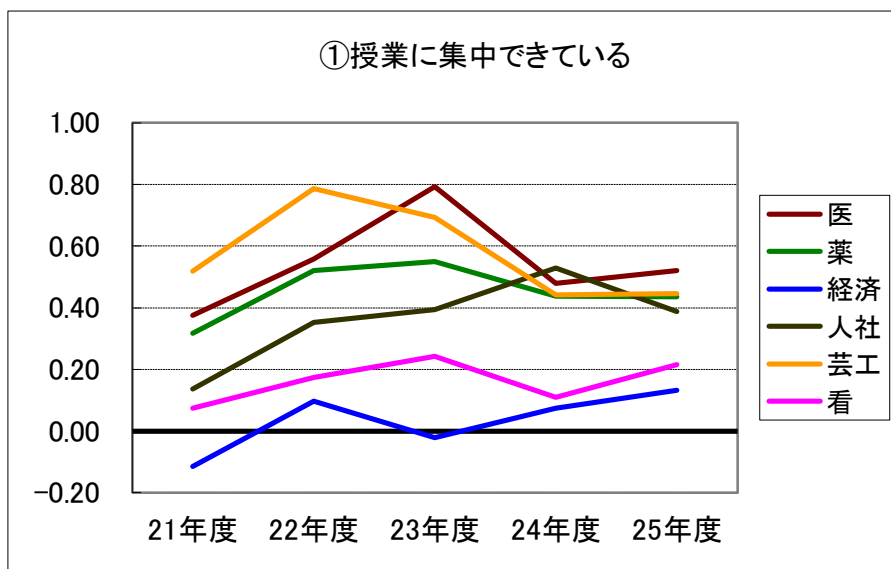
Q7 大学での目標について-1



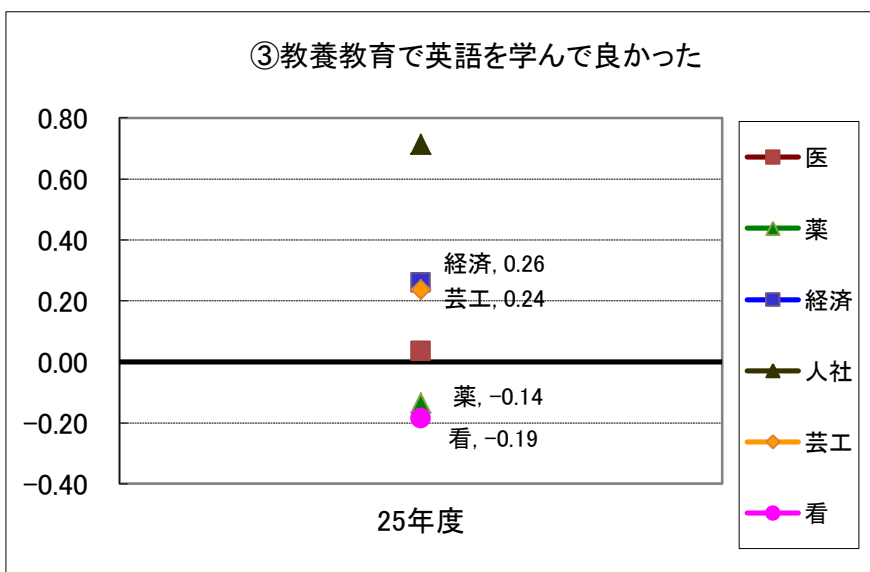
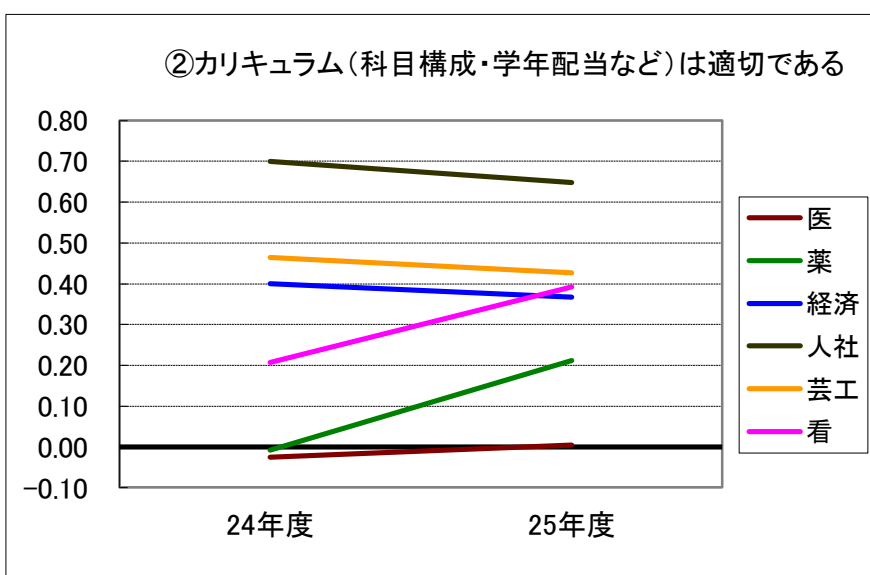
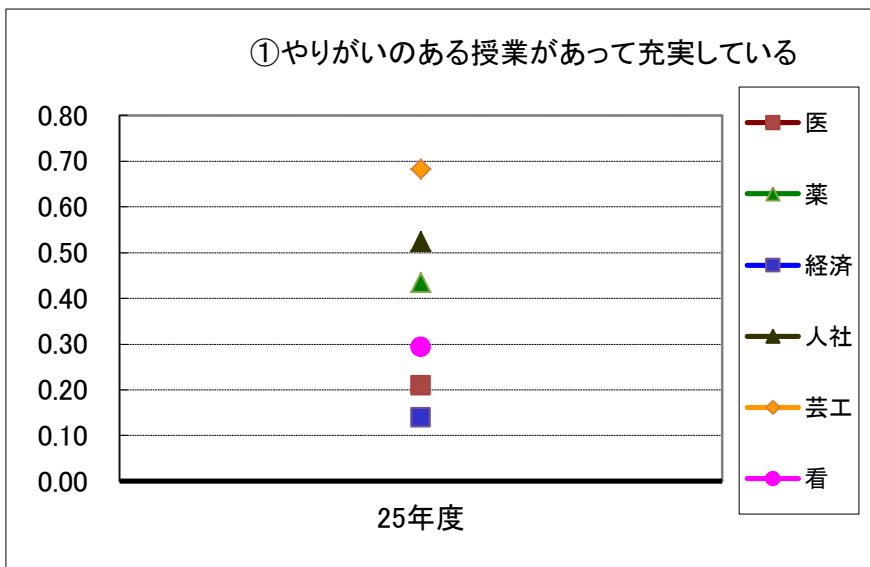
Q7 大学での目標について-2



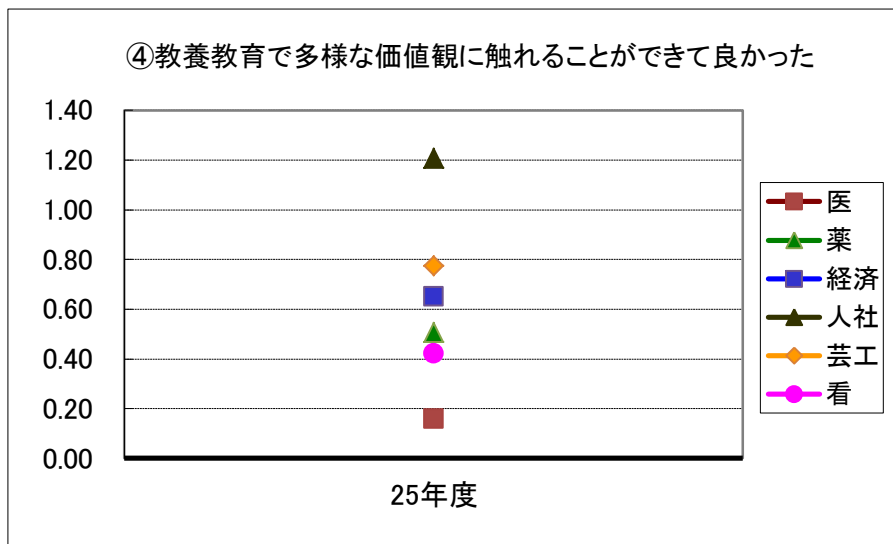
Q8 授業への自分の取り組みについて



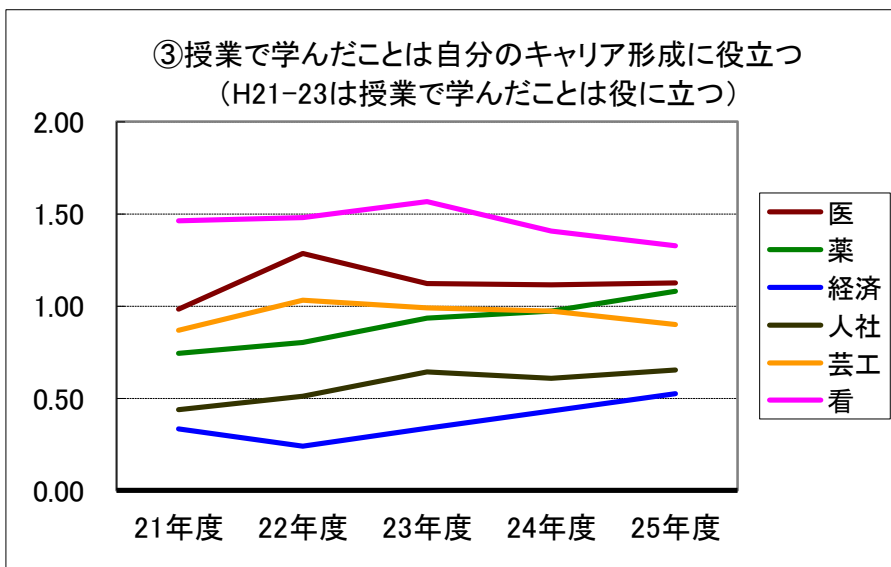
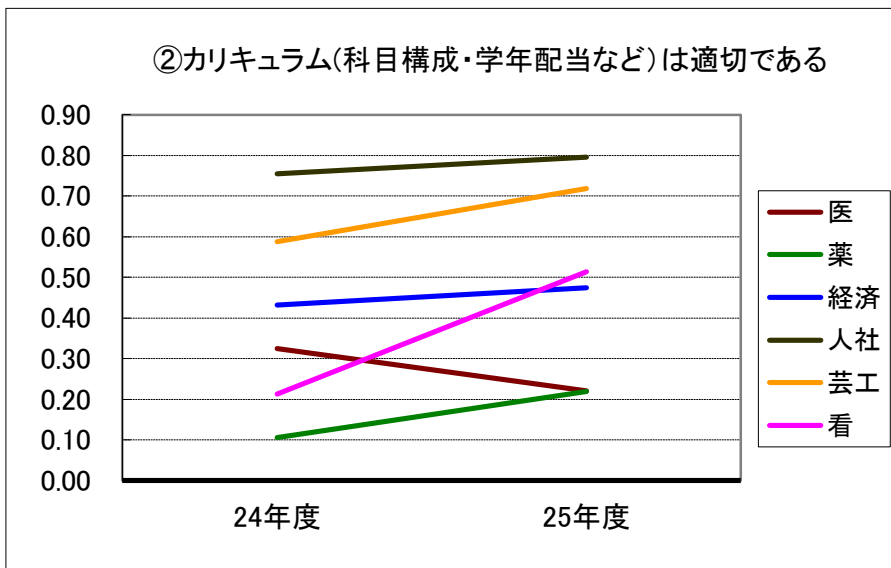
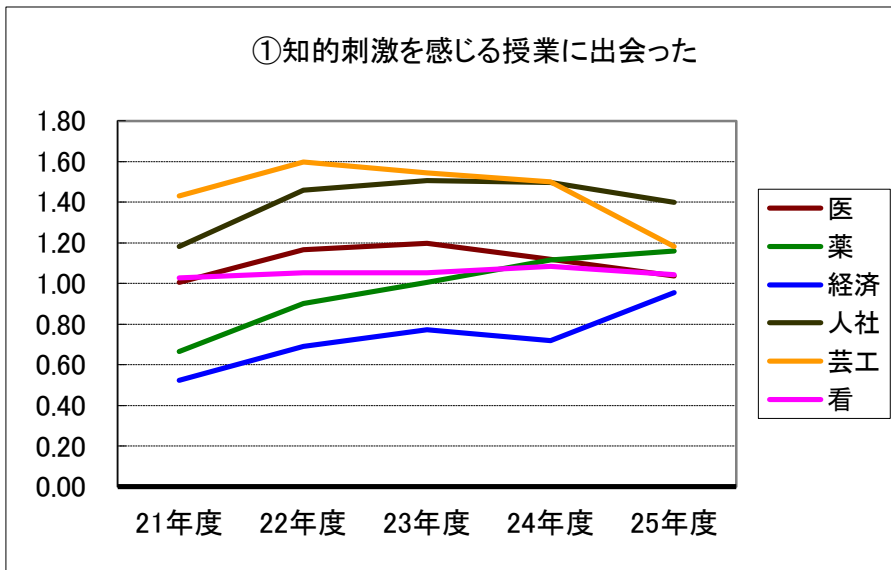
Q9 これまで受けてきた授業内容(教養教育)について-1



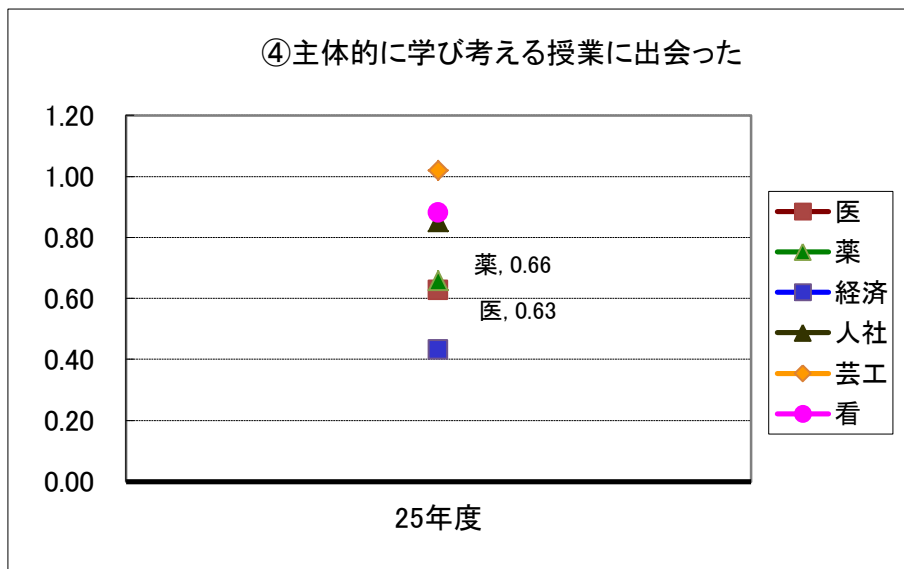
Q9 これまで受けてきた授業内容(教養教育)について-2



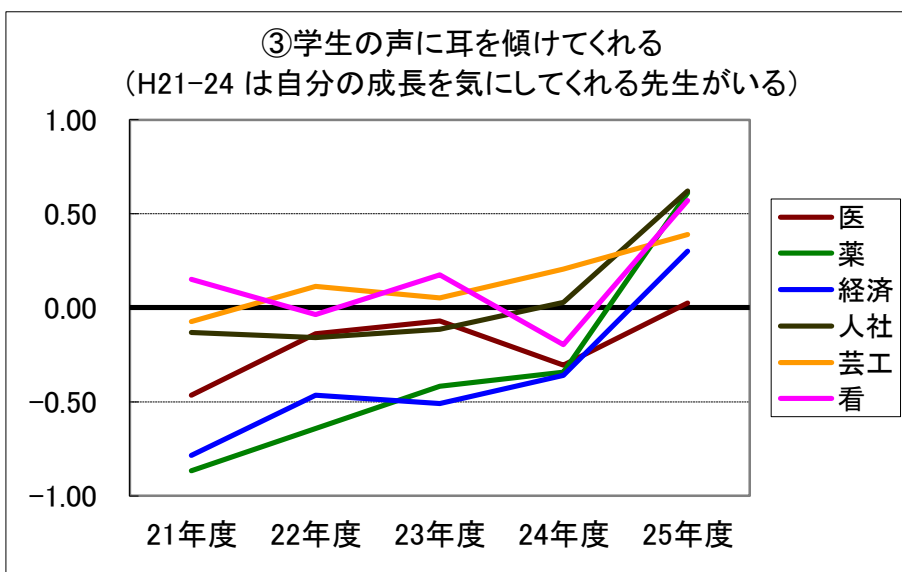
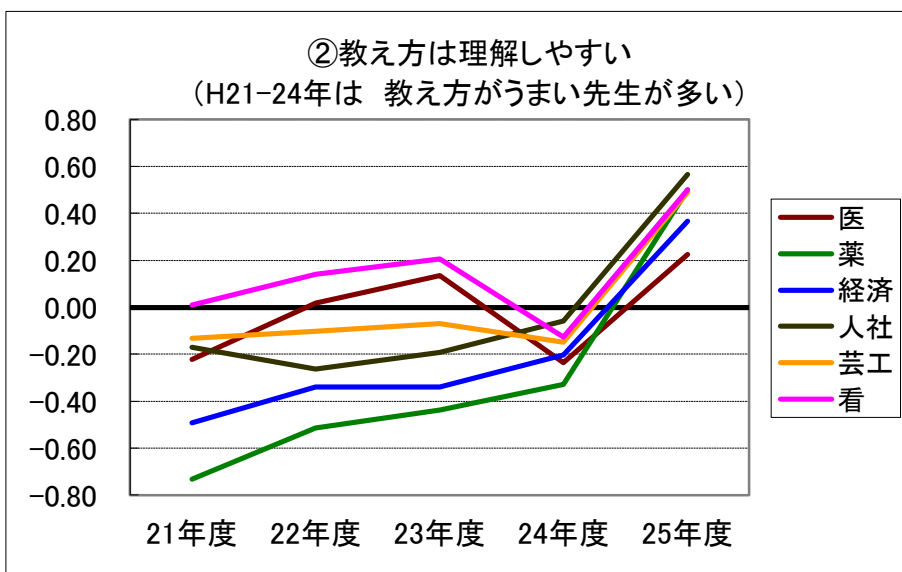
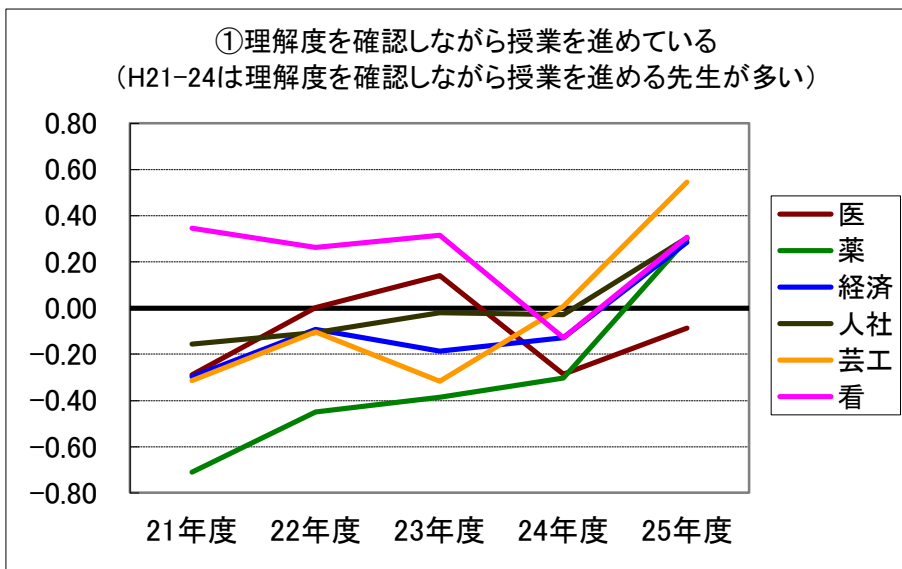
Q10 これまで受けてきた授業内容(演習、実習等を含む。)についてー1



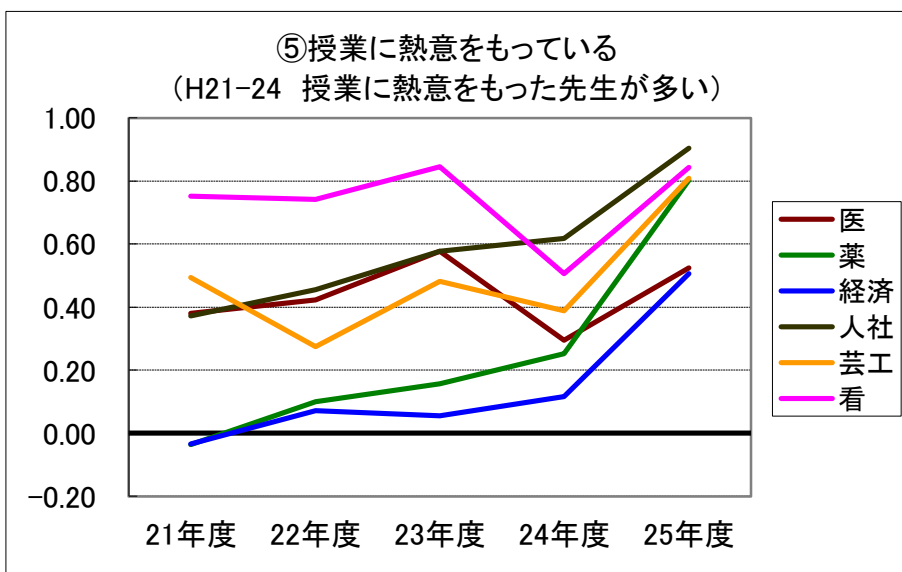
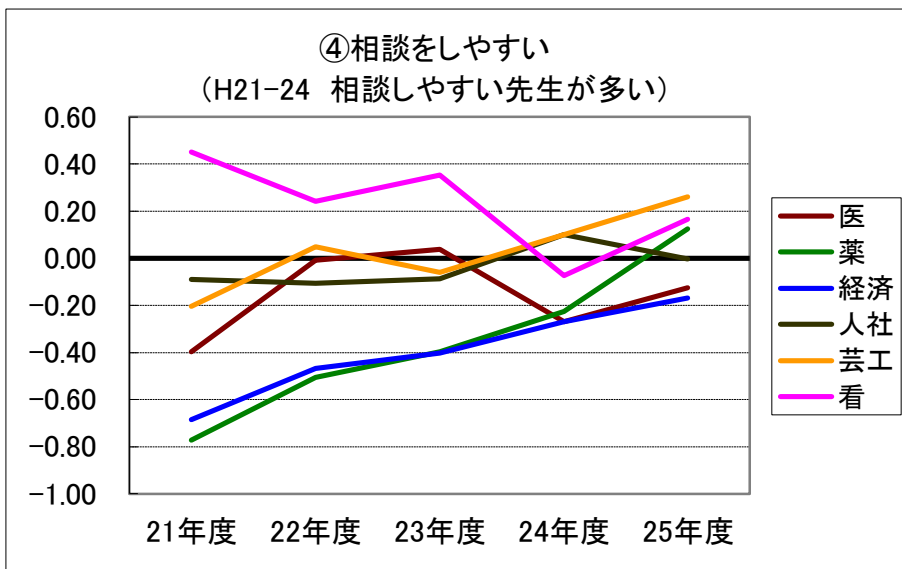
Q10 これまで受けてきた授業内容(演習、実習等を含む。)について-2



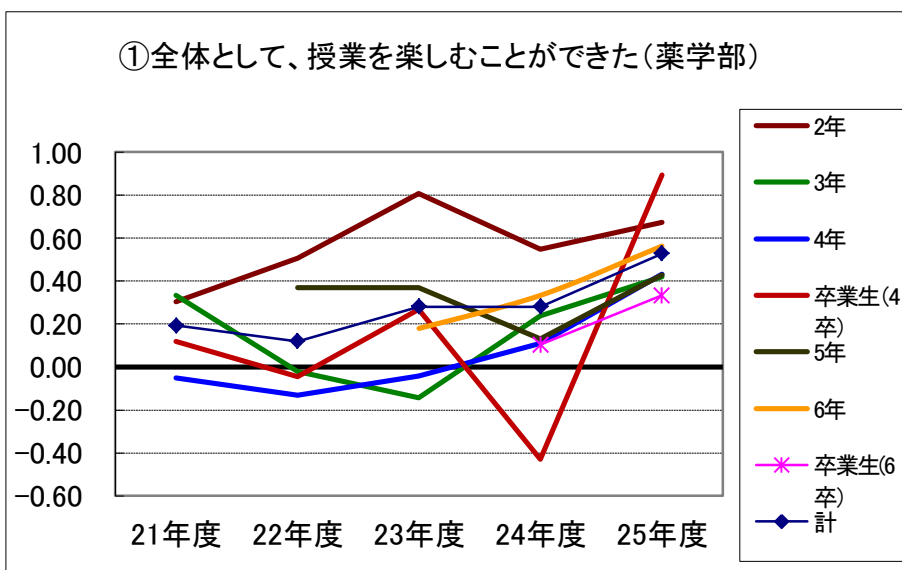
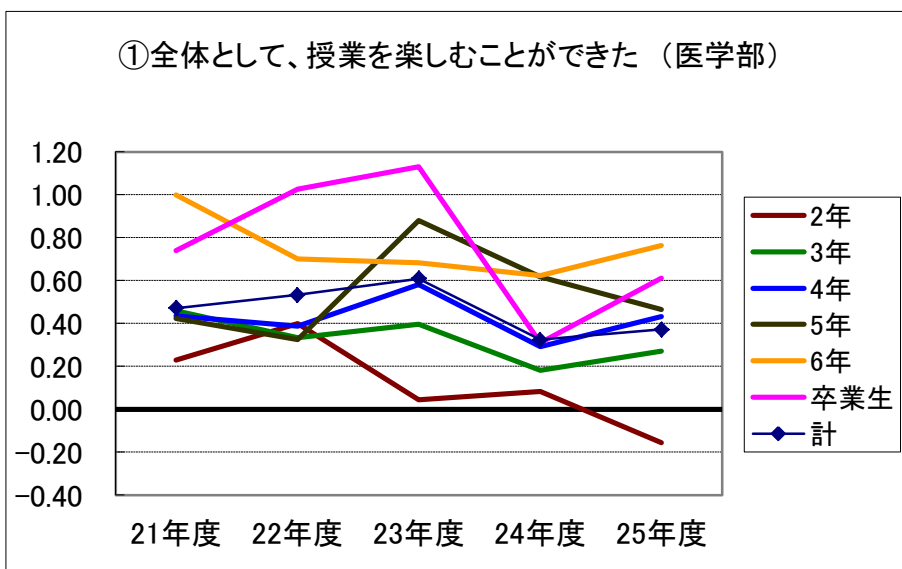
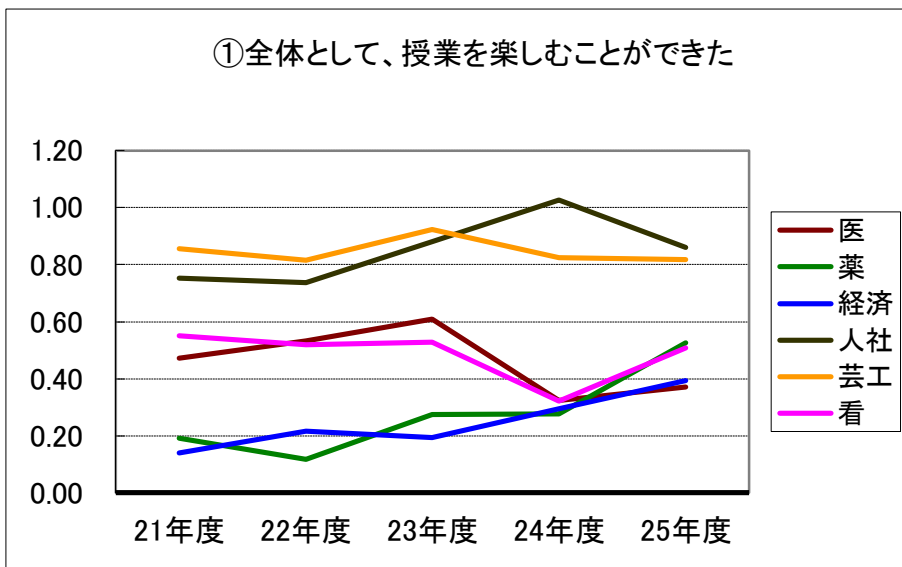
Q11 授業への教師の取り組みについて-1



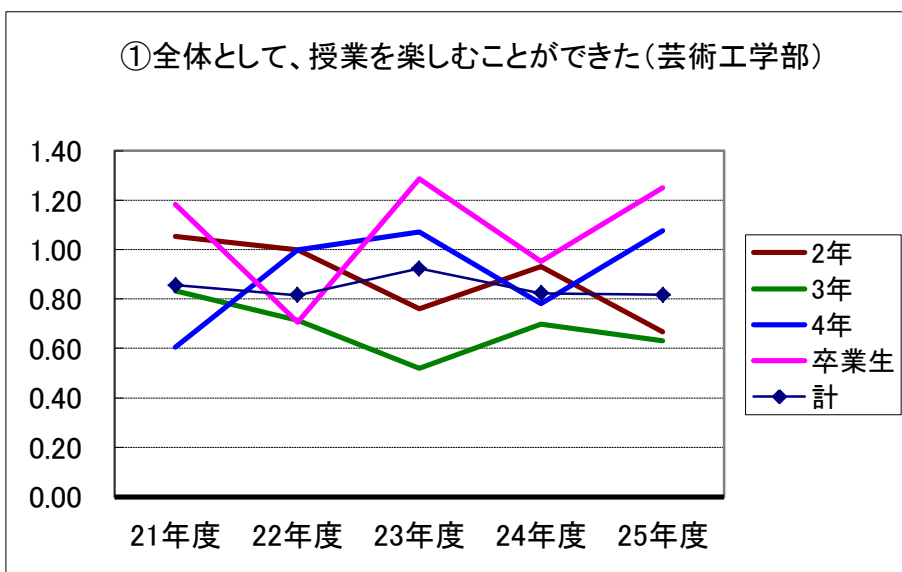
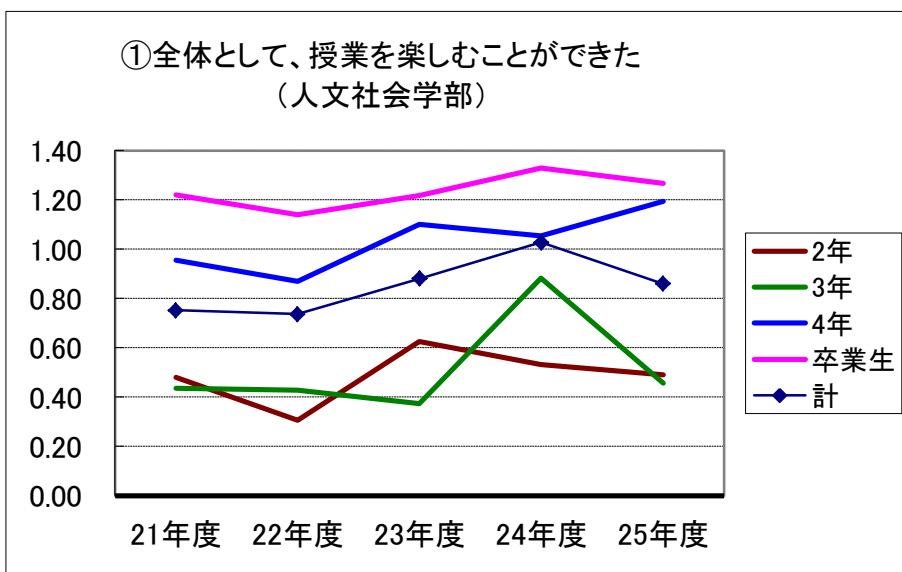
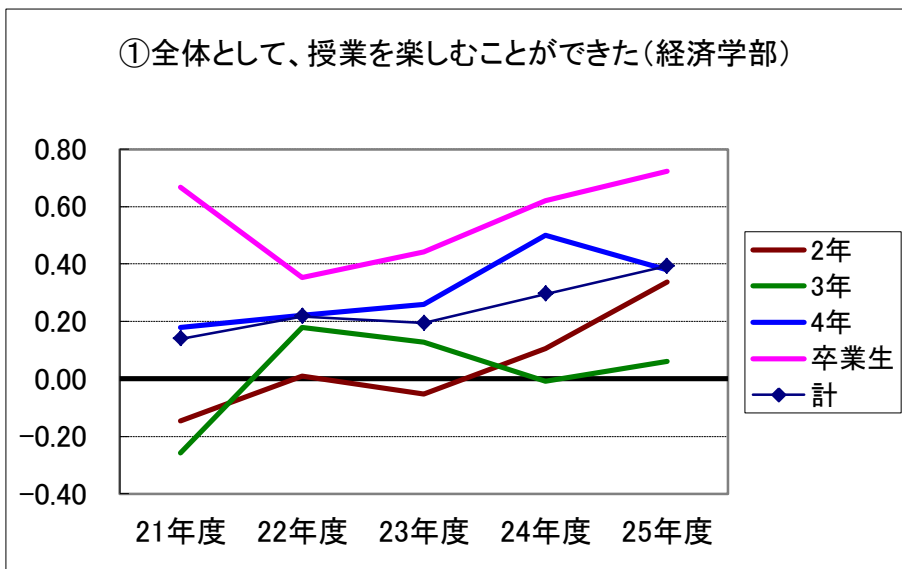
Q11 授業への教師の取り組みについて-2



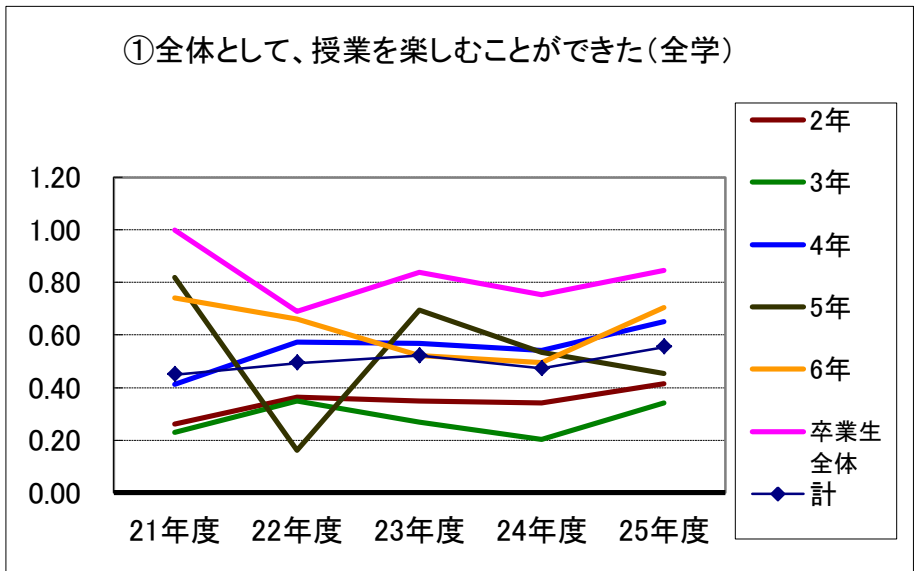
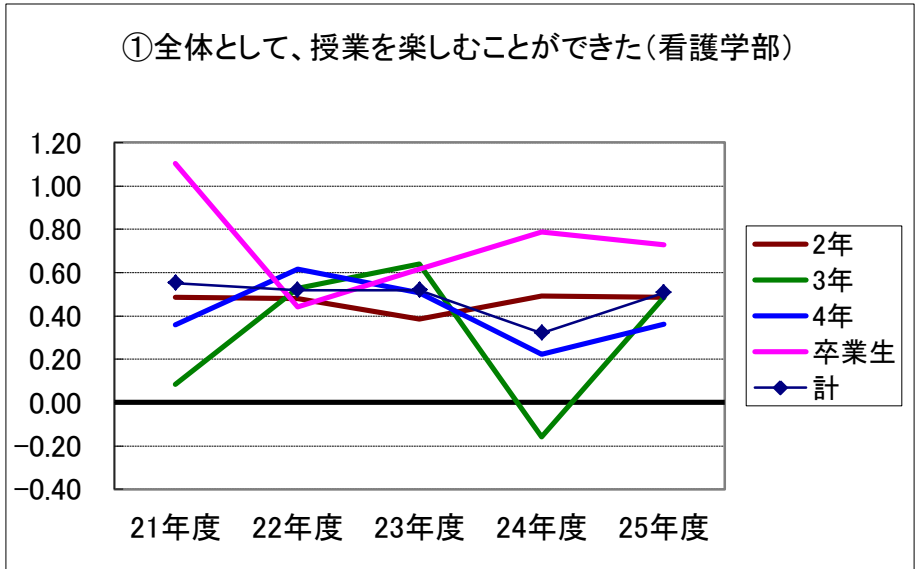
Q12 授業の全体的な印象について①-1



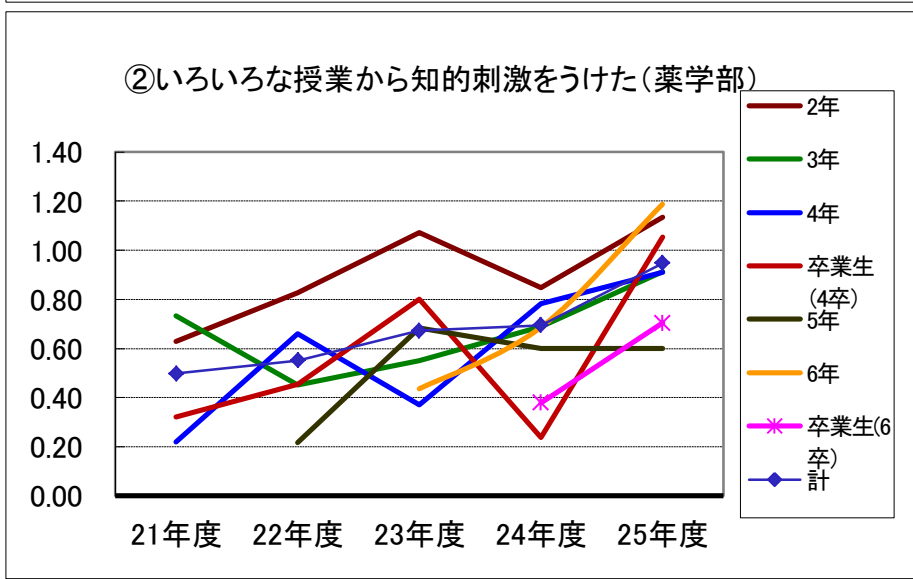
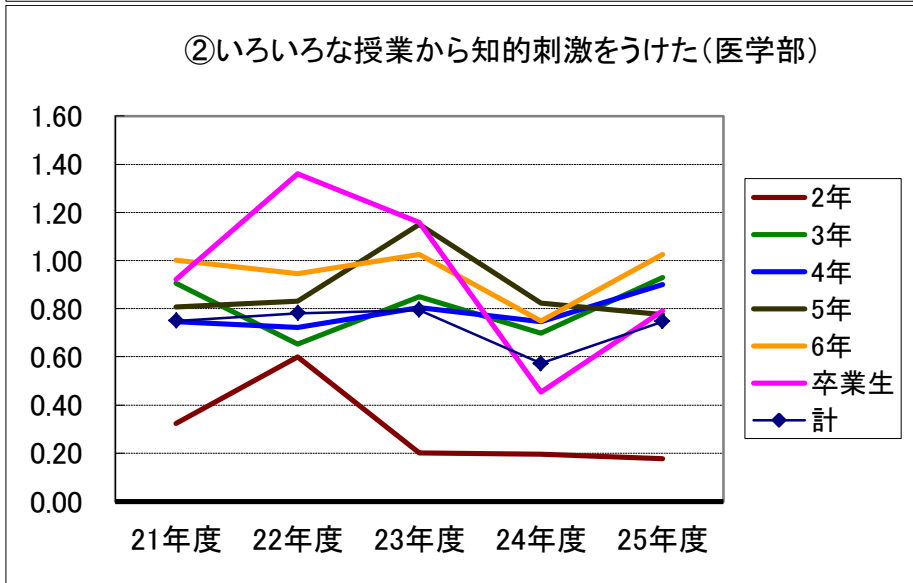
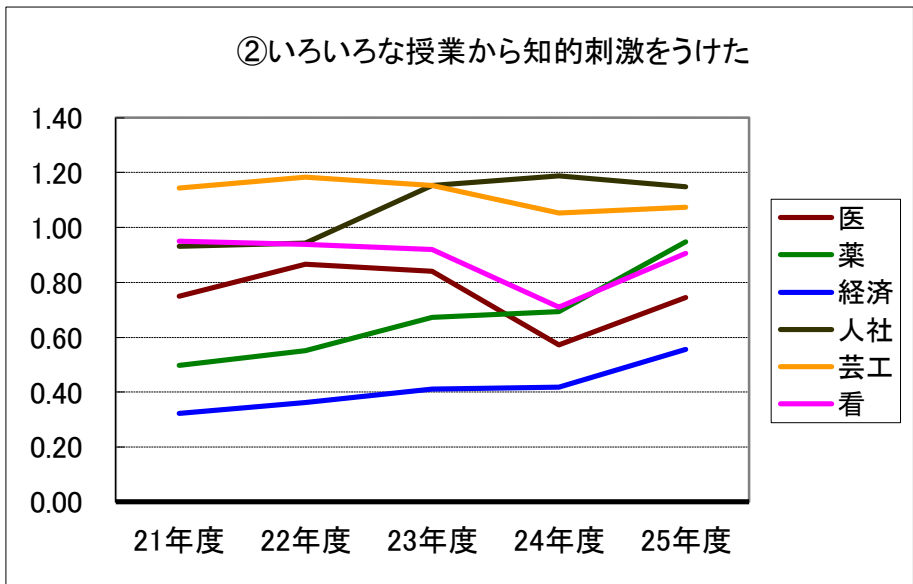
Q12 授業の全体的な印象について①-2



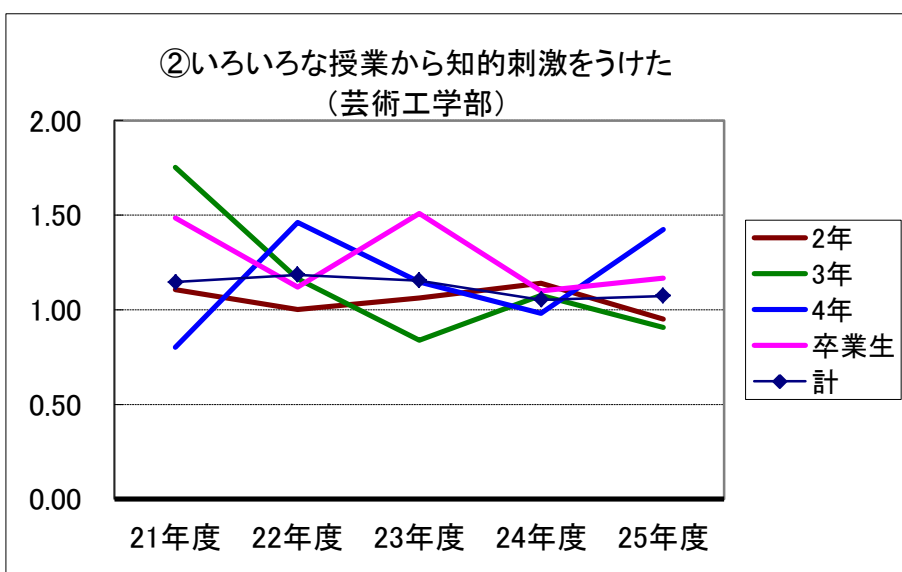
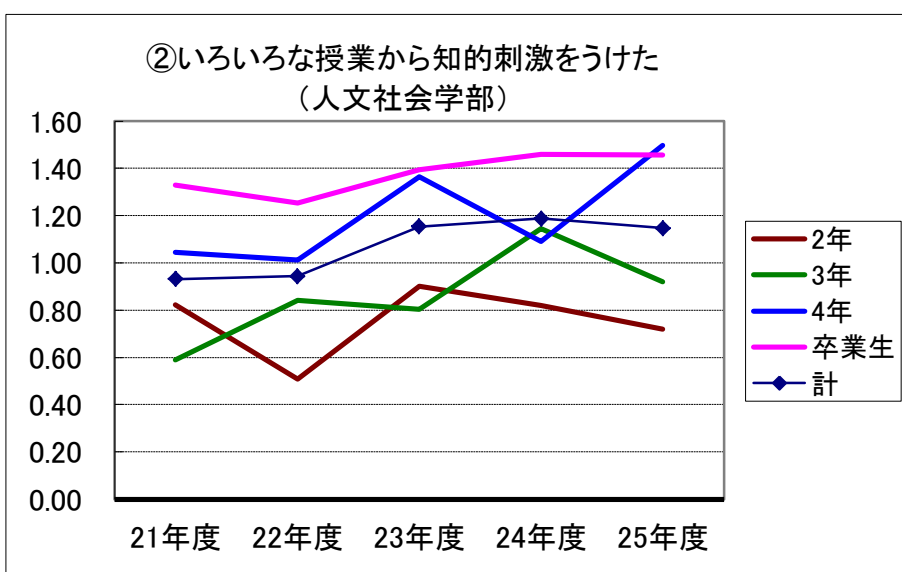
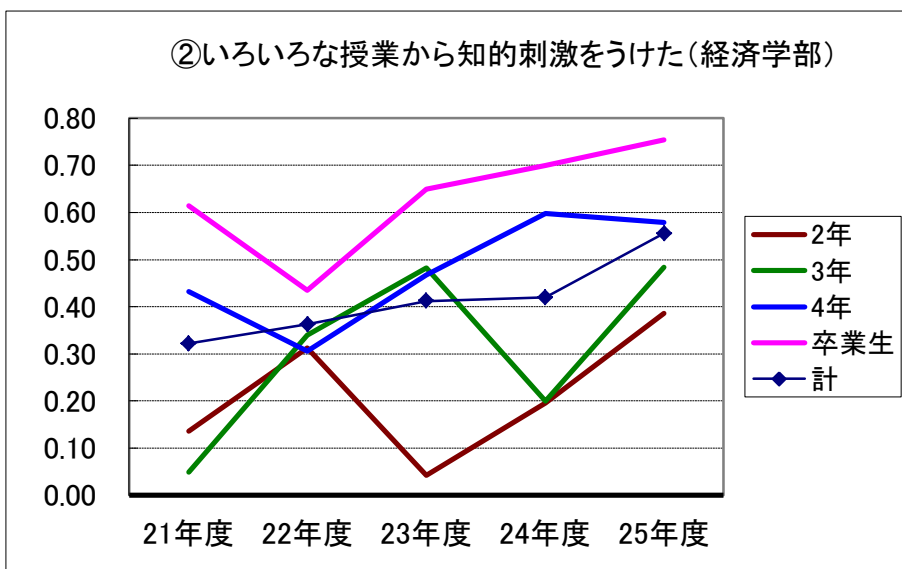
Q12 授業の全体的な印象について①-3



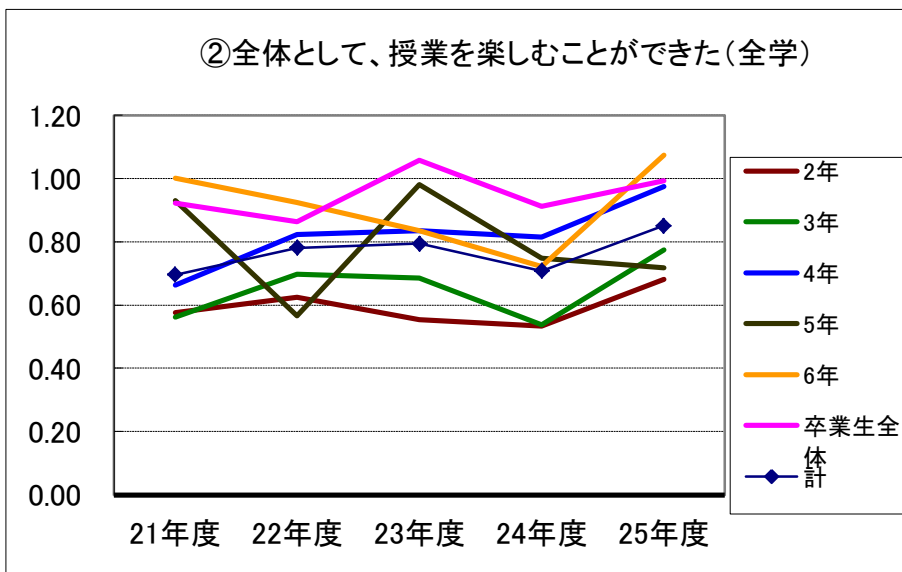
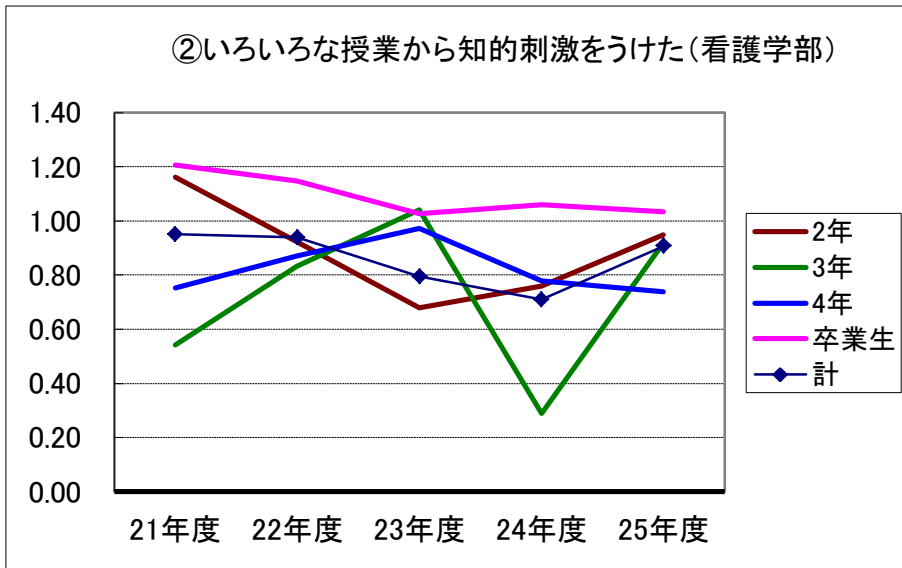
Q12 授業の全体的な印象について②-1



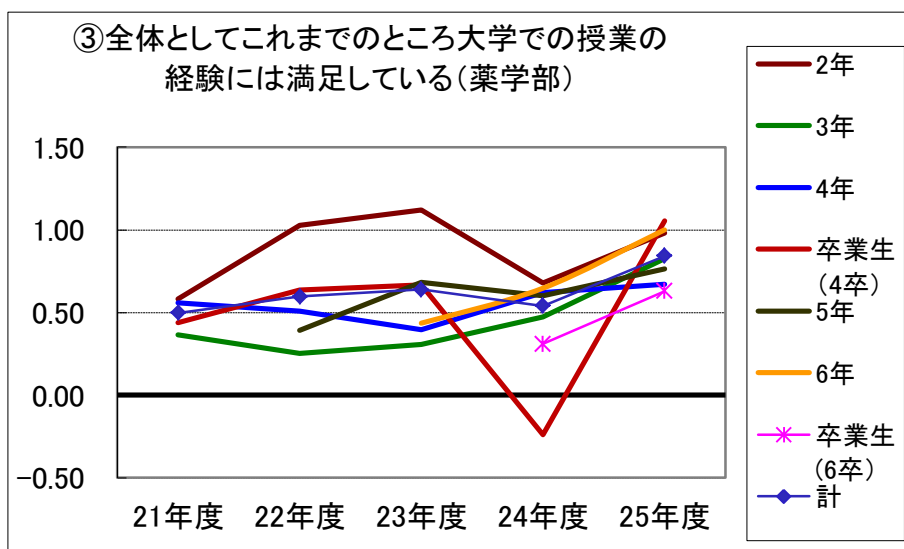
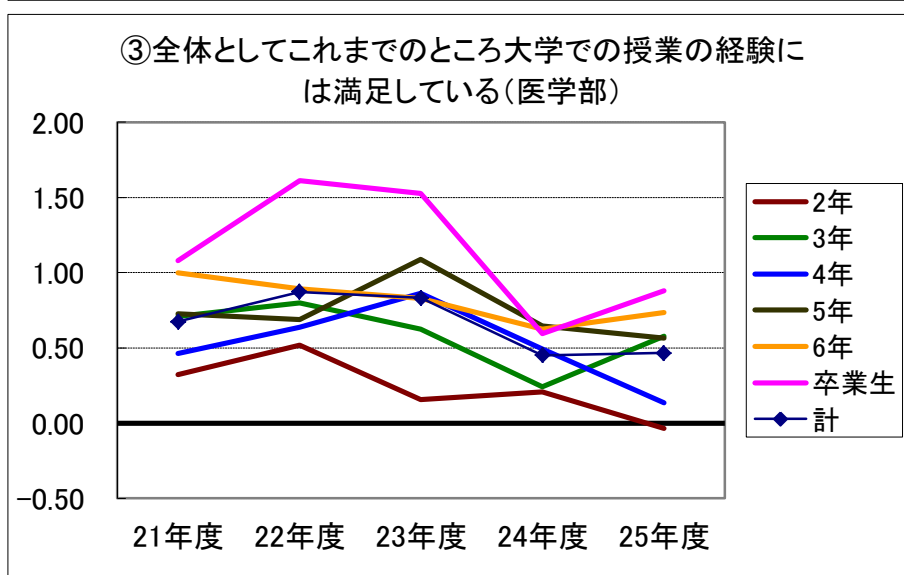
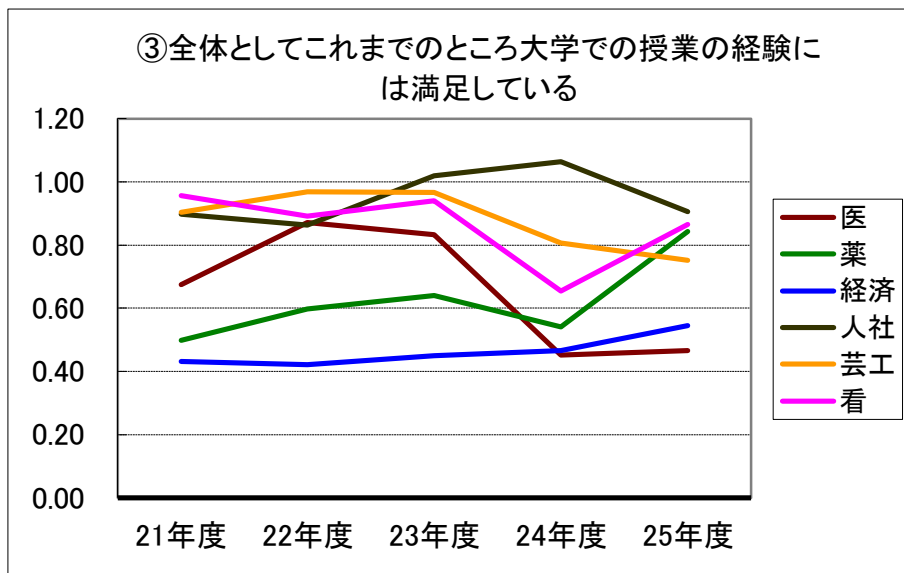
Q12 授業の全体的な印象について②-2



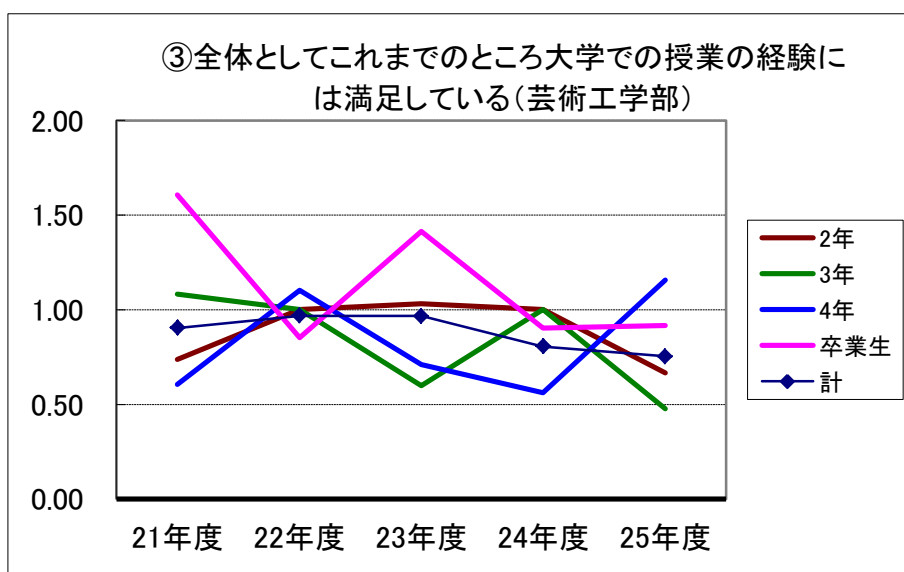
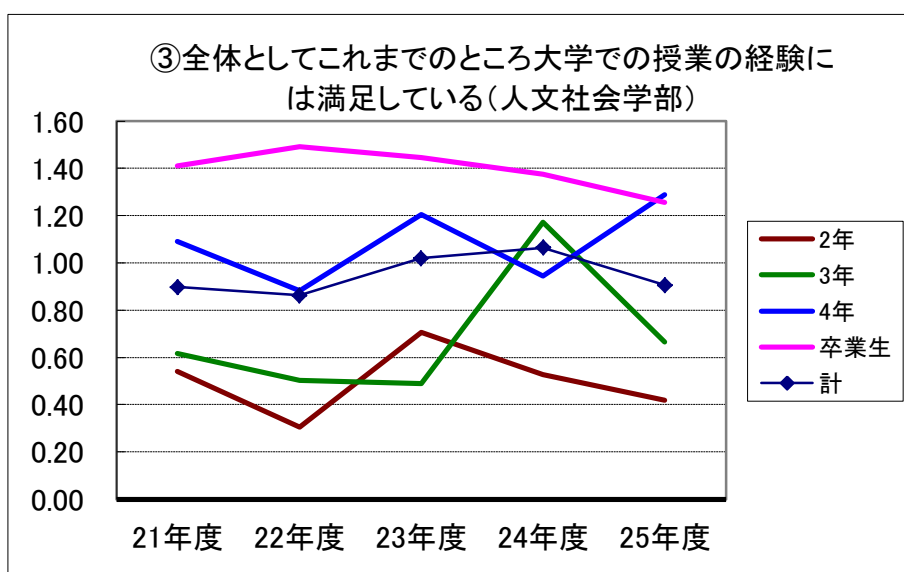
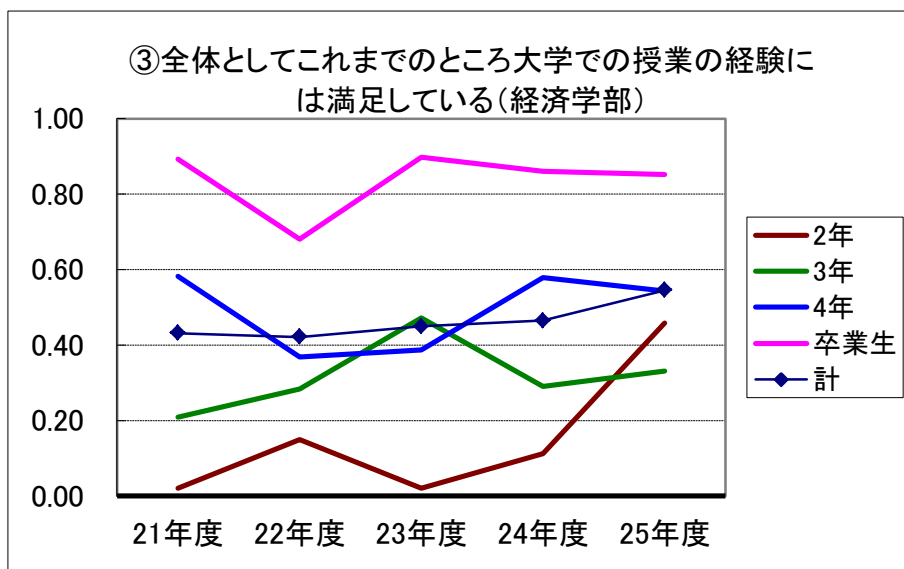
Q12 授業の全体的な印象について②-3



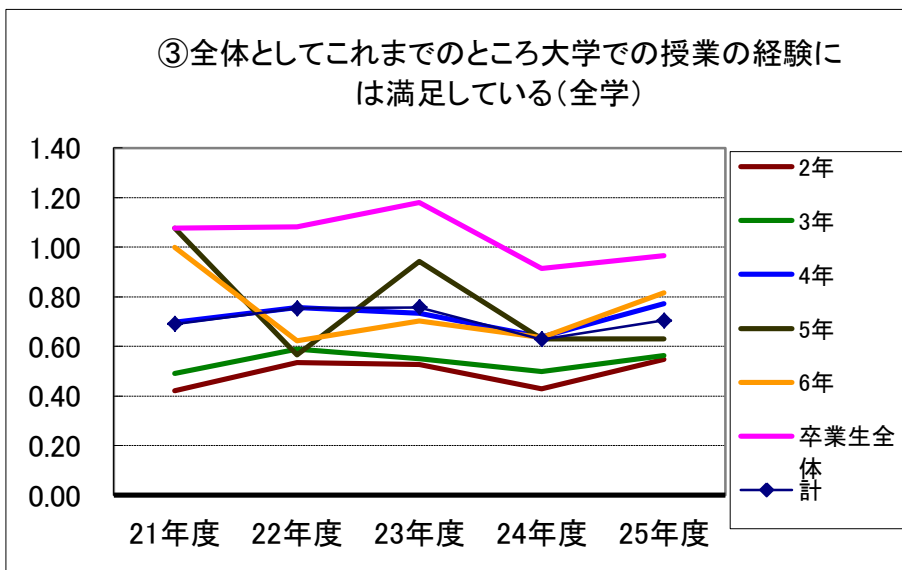
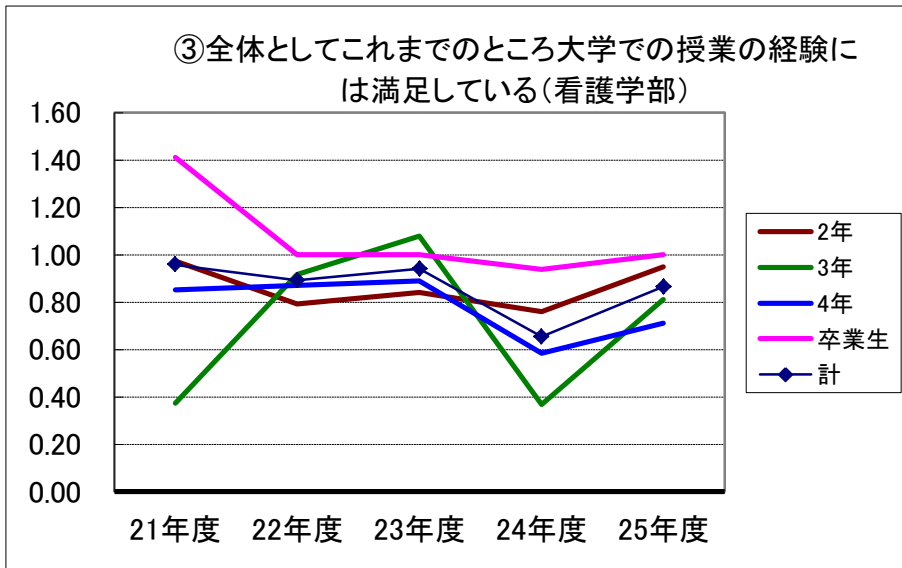
Q12 授業の全体的な印象について③-1



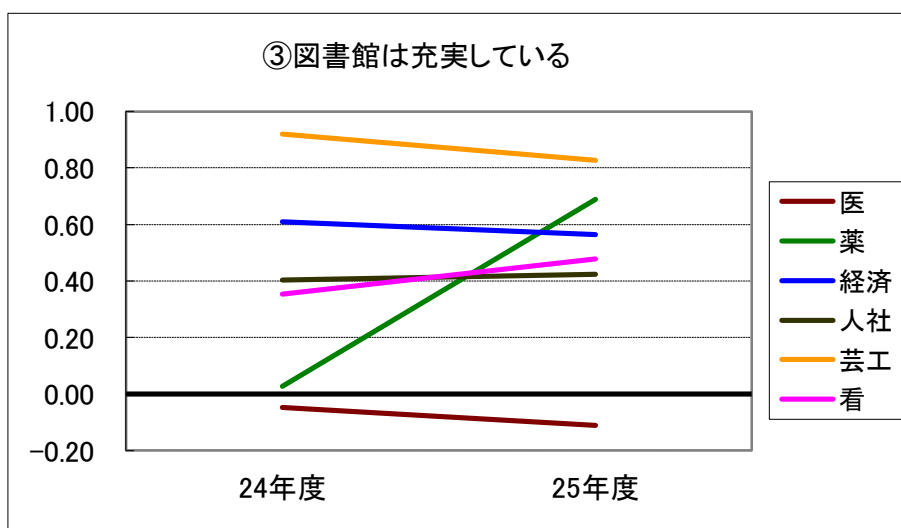
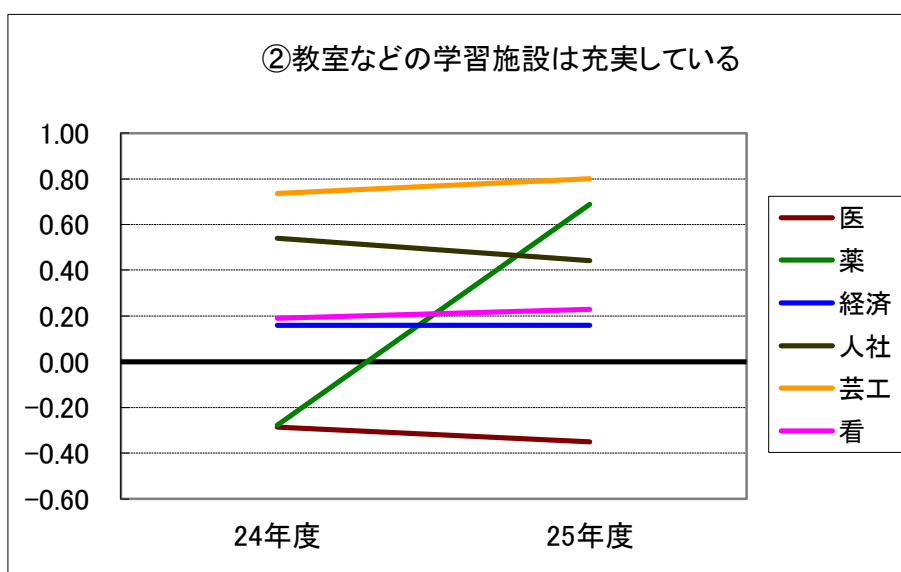
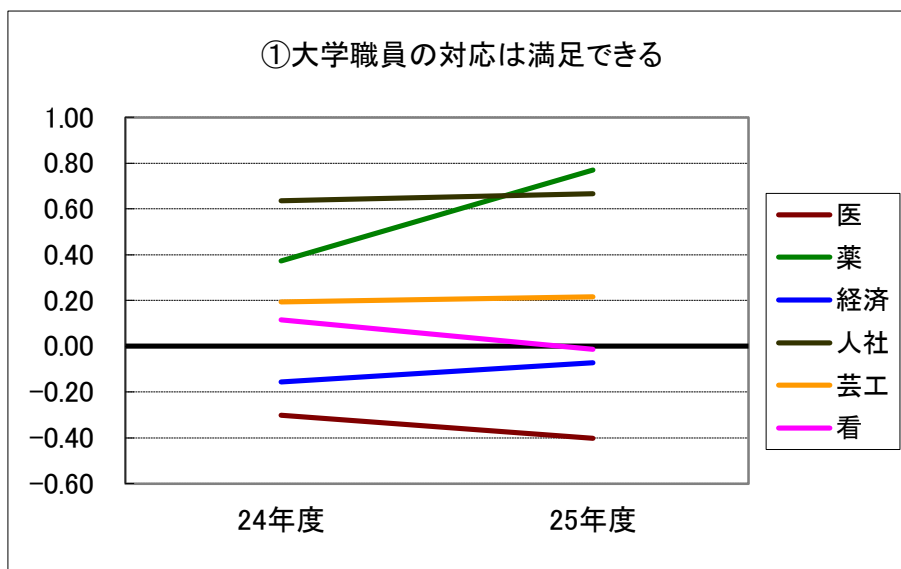
Q12 授業の全体的な印象について③-2



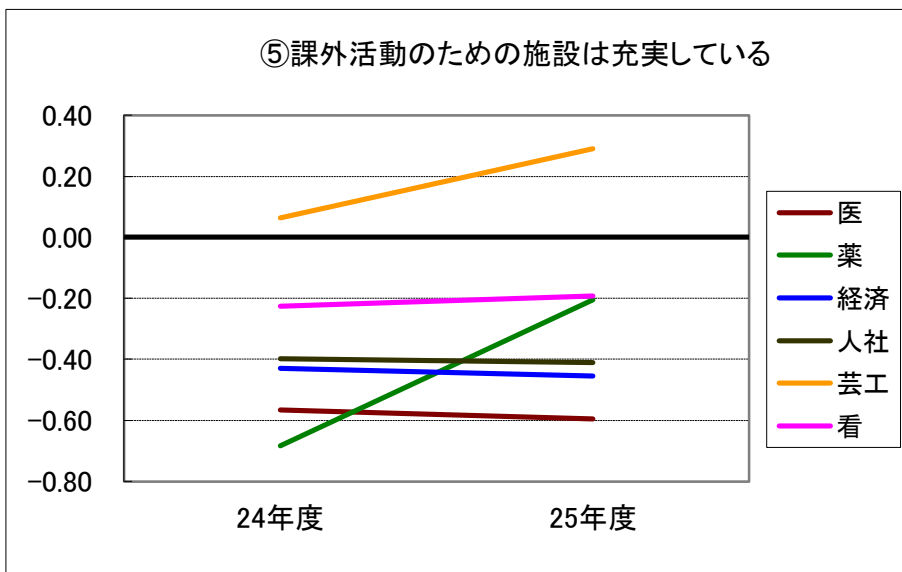
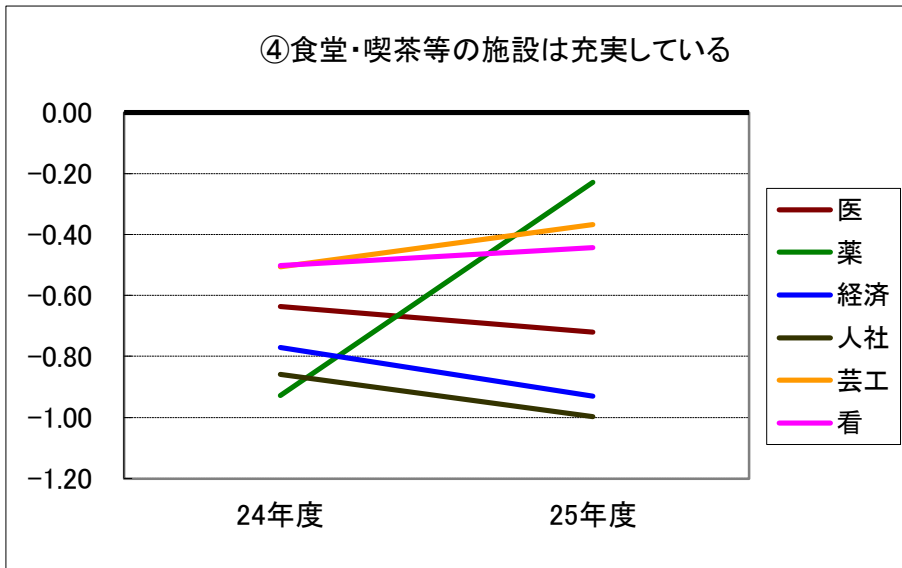
Q12 授業の全体的な印象について③-3



Q13 事務室・図書館や課外活動について-1

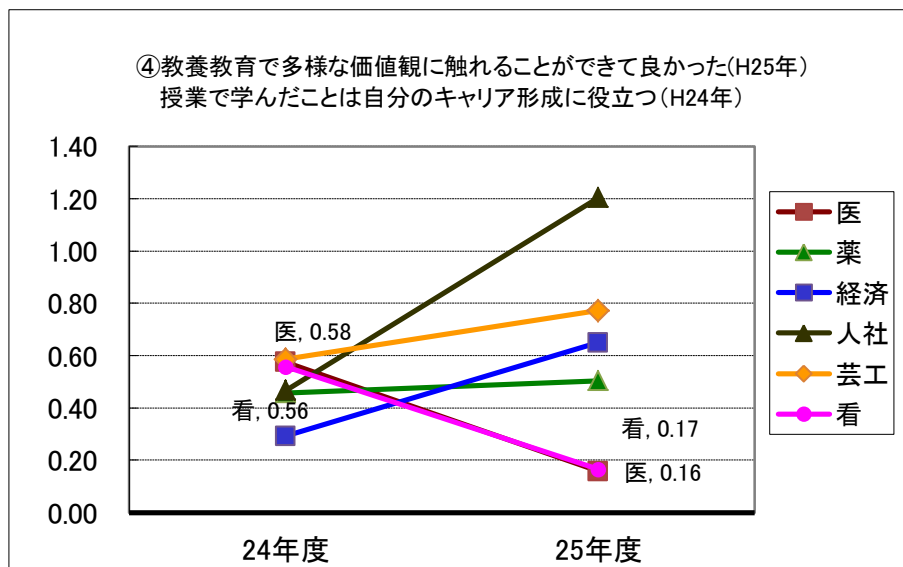
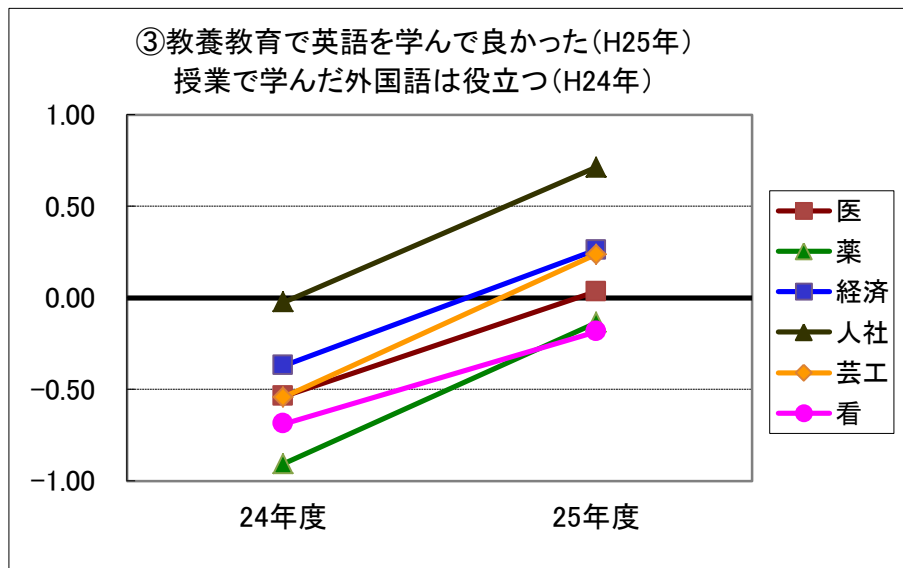
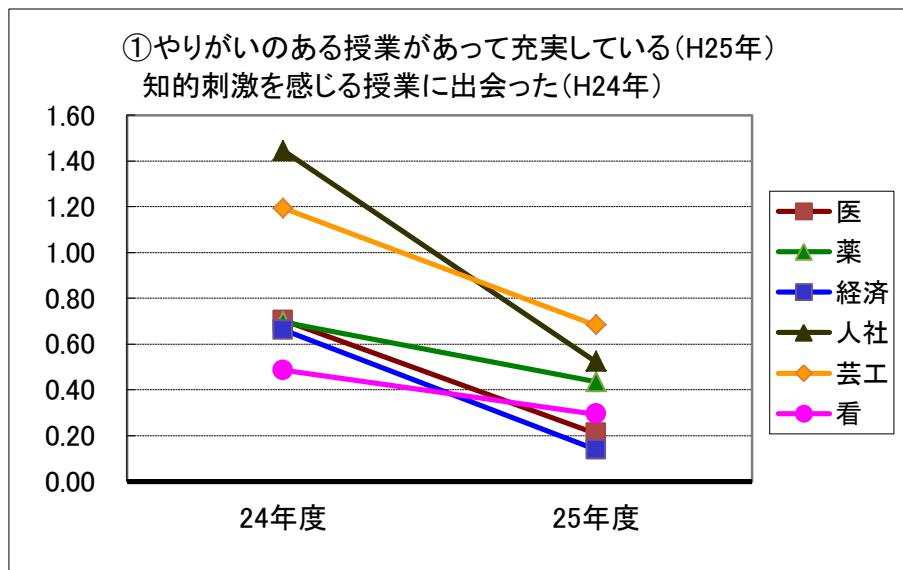


Q13 事務室・図書館や課外活動について-2



【参考】前年度と質問内容を変えた項目の比較

Q9 これまで受けてきた授業内容(教養教育)について



～～「大学満足度調査」結果 23、24、25年度の比較～～

◆回答状況

学部／学年		調査対象者数							計	回答数	回答率
		2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	小計	卒業生			
医学部	25年度	102	115	78	90	78	463	75	538	452	84.0%
	24年度	121	79	89	78	76	443	85	528	484	91.7%
	23年度	100	95	78	76	86	435	78	513	452	88.1%
薬学部	25年度	130	118	97	56	60	461	106	567	429	75.7%
	24年度	138	103	99	60	58	458	101	559	398	71.2%
	23年度	122	96	100	60	59	437	36	473	320	67.7%
経済学部	25年度	234	246	239			719	252	971	774	79.7%
	24年度	239	250	238			727	250	977	772	79.0%
	23年度	242	252	228			722	243	965	785	81.3%
人文社会学部	25年度	170	166	183			519	220	739	563	76.2%
	24年度	166	161	191			518	213	731	448	61.3%
	23年度	161	175	181			517	196	713	529	74.2%
芸術工学部	25年度	103	83	83			269	102	371	225	60.6%
	24年度	84	87	85			256	97	353	236	66.9%
	23年度	85	86	83			254	84	338	240	71.0%
看護学部	25年度	80	85	79			244	83	327	280	85.6%
	24年度	82	84	82			248	80	328	295	89.9%
	23年度	79	85	78			242	85	327	277	84.7%
計	25年度	819	813	759	146	138	2,675	838	3,513	2,723	77.5%
	24年度	830	764	784	138	134	2,650	826	3,476	2,633	75.7%
	23年度	789	789	748	136	145	2,607	722	3,329	2,603	78.2%